

# 労働部、革マルと結託「業務移管」実力で阻止 は労働千葉つぶし「業務移管」実力で阻止

## 処分許すな。613ダイヤ改訂は労働千葉つぶし 「検修大合理化阻止」

当局は「61・3」ダイヤ改訂において、一五四名もの検修関係要員の大合理化を提案すると同時に、「業務量の平準化」と称し千葉局の仕事を東京三局にもたせるといふ業務移管攻撃をかけてきている。これは、大量の余剰人員を生み出すことで、千葉局において「三人に一人」の首切りを実現しようとする許しがたい攻撃であるばかりか、労働「本部」革マルと結託した労働千葉つぶしそのものである。これを黙って許せるか。不当処分粉砕の闘いと結合した、怒りの第二波闘争で断固粉砕しよう。

### 「業務量の平準化」の大ペテン

当局は、「業務量の平準化」と言うことを唯一の理由に、総武緩行線・快速線、我孫子線の大幅な業務移管を強行しようとしている。しかし、よく考えても見よ、①業務量から言えば東京の方が圧倒的に多いではないか。②要員から見ても、千葉局では、現行の業務量をこなせないほど人がいないのではなく、要員は充分にある。③一方、たとえば総武緩行線を移管するという西局では、現行でもギリギリの要員でまかっているという、日本一余剰人員の少ない所なのである。何が「業務量の平準化」だ。大ペテンではないか。

### 労働革マル松崎と結託した労働千葉つぶしを粉砕せよ

当局の狙いは、労働千葉つぶしにある。しかし、公然と言う事ができないがゆえに、ペテン的に「業務量の平準化」と称しているのだ。

要するに、労働千葉が、総武緩行・快速等をガッチリと握っている内は、中曽根や杉浦は枕を高くして寝れないというのだ。だからこそ、ストどころか、全く当局の先兵となりはてた労働「本部」革マル松崎と結託し、千葉の仕事を東京へ移管しようと言うのである。

すでに、松崎は当局と一体となり、中野電車区へ、機関士からの転換者の送りこみを開始している。

労働者の首を切るというやつらが、枕を高くして寝るために、労働者から仕事を奪い、組織を破壊するという、かかる理不尽・デタラメな攻撃をどうして許せるか。

### 反処分・検修合理化粉砕、業務移管阻止の第二波へ起て

同時に、この攻撃は、仕事を取り上げ、大量の余剰人員を生み出すことで、千葉局において具体的に「三人に一人」の首切りを実現せんとする凶暴な攻撃である。その意味では労働千葉どころか、国労の労働者も含めた、全千葉局の労働者への重大な攻撃である。

われわれは「三人に一人」の首切りなど断じて認められない。これを阻止するためには何度でも闘いにたつ。

不当処分粉砕・検修合理化粉砕と結合し、第二波闘争の軸に、この業務移管阻止闘争をすえ、断固闘いぬこう。

### 全力で集まろう

### '86年団結旗開き

日時・1月11日(土)13時〜17時  
場所・労仲者福祉センター・大ホール  
（一部、映画と講演、オニオン検校アトラクション）